

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会
地上業務委員会(第29回) 議事概要 (案)

1 開催日時

平成26年4月30日(水) 14:30 ~ 16:30

2 場所

総務省11階 11階会議室

3 出席者(敬称略、順不同)

[専門委員]

三瓶 政一(主査)、小川 博世、坂田 史郎、高野 祐美子、中村 勝英、橋本 明、
吉田 英邦

[関係者]

水池 健、今田 諭、山本 武志、小山 敏、吉野 仁、宮寺 好男、涌井 寿和、
大槻 信也、植田 由美、荒木 正治

[事務局]

森下、高橋、奥井、保坂、竹下、桐山、加賀谷、白井、小柳

4 配付資料

- | | |
|----------|---------------------------|
| 資料地-29-1 | 地上業務委員会(第28回)議事要旨(案) |
| 資料地-29-2 | ITU-R SG5 関連会合報告書(案) |
| 資料地-29-3 | ITU-R SG5 関連会合への日本寄与文書(案) |
| 資料地-29-4 | ITU-R SG5 関連会合への対処方針(案) |

- | | |
|-------|------------------------|
| 参考資料1 | ITU-R SG5関連会合の開催案内 |
| 参考資料2 | ITU-R SG5 関連会合の日本代表団一覧 |
| 参考資料3 | 地上業務委員会構成員名簿 |

5 議事概要

(1) 地上業務委員会(第28回)の議事要旨について

【資料地-29-1】

地上業務委員会(第28回)の議事要旨について、事務局から説明があり、エディ

トリアルな修正を施した後承認された。

なお、修正項目がある場合は5月7日（水）までに事務局へ連絡する旨了承された。

(2) ITU-R SG5 関連会合報告書（案）について

【資料地-28-2】

事務局から、ITU-R SG5関連会合の報告があり、下記の質疑の後、承認された。

三 瓶 主 査：PPDRについてNB/WB/BBと分けて議論するとのことだが、WBとはどのような技術が想定されているのか。

事 務 局：決議646にNB/WB/BBについては通信速度の違いで定義されており、それにそった技術が想定されている。

(3) ITU-R SG5 関連会合への日本寄与文書（案）について

【資料地-29-3-1】

水池氏から「6GHz帯以下における広帯域移動システムのローカルカバレッジ展開のための運用指針の解析および作業提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三 瓶 主 査：本提案は協調がポイントなのか、5Aとして何をもとめているのかが不明である。現地では5Dとの違いも考慮し、クリアに説明して欲しい。

今 田 氏：承知した。本提案は勧告M.1801すべて対象としている。その中でどのような条件がそろえば運用条件が緩和できるのか、研究を進めたい。

橋 本 委 員：本レポート等には[]つきで仮の名称をつけるべきであろう。

今 田 氏：承知した。

【資料地-29-3-2】

事務局より「WRC-15 議題1.3のCPMテキスト草案の作業文書への修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋 本 委 員：ある帯域を特定するには、いろいろ段階を踏まえる必要があると思うので、APG等も含めて対処いただきたい。今回の提案については決議646のfootnoteに落ち着かせるという判断もあるので検討してほしい。

事 務 局：承知した。

【資料地-29-3-3】

吉野氏から「新レポート草案 [LMS. CRS2]のセクション7.1と9.2の改訂提案」について説明があり、特段の質疑はなく承認された。

【資料地-29-3-4】

山本氏から「車車間及び路車間 (V2X) 通信に関する暫定新勧告草案へ向けた作業文書への改訂提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、エディトリアルな修正を施し、承認された。

橋本委員：現在editor's noteに周波数を5.8GHzに限定しない旨、注意書きがあるが、このような内容はSCOPEに記載すべきであろう。会合の場で、議論していただきたい。

山本氏：承知した。

【資料地-29-3-5】

小山氏から「77.5-78 GHz帯の自動車用レーダーのシステム特性及び共用と干渉検討に関する新レポートに向けた作業文書への変更提案」について説明があり、特段の質疑はなく承認された。

橋本委員：本レポートは今年完成予定だが、間に合うのか。

小山氏：会合で相談しながら完成にむけて進めていく予定である。

【資料地-29-3-6】

事務局から「新報告草案 3-50 MHz帯で運用する海洋レーダーの周波数利用のためのガイドライン」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査：Annex 6の略語集は、レポートの最後に記載するのがITUでのルールなのか。一般的には前の方に記載するのではないか。

事務局：ITU-R勧告の場合は、テンプレートがあり、略語集は冒頭に記載することとなっているものの、ITU-R報告の場合はテンプレートがないため、同じ海洋レーダーに関するITU-R報告の書きぶりに合わせてAnnexの最後に略語集を記載した。

橋本委員：会合の場で、冒頭の方が分かりやすいとの意見が多ければ、冒頭に記載しても良いのではないか。

事務局：会合の場で、DG議長や他国の参加者と相談したい。

【資料地-29-3-7】

宮寺氏から「WRC-15議題1.15のCPMテキスト案に向けた作業文書の修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本委員：和文概要に、移行期間に関する記述があるが、WRC-15終了後、新しい無線通信規則（RR）が有効になるのは、通常、WRCの終了約1年経過後の1月1日、すなわち2017年1月1日である。現在のRRはそれまでは有効であるため、本件について議論があった場合には、ご留意いただきたい。

宮寺氏：承知した。

【資料地-29-3-8】

宮寺氏から「WRC-15議題1.16のCPMテキスト案に向けた作業文書の修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本委員：規則・手続き規則に関するセクション（3/1.16/6）の周波数割当て表にMSSへの新規分配（二次分配）が追記されている。そのため、MethodにMSSを分配する旨の説明を追記する必要がある。

宮寺氏：承知した。

【資料地-29-3-9】

植田氏から「暫定新勧告案ITU-R F. [FS DEPLOY]の作業文書の修正提案 固定業務のPoint-to-pointシステムの配置シナリオ」について説明があり、以下の質疑応答の後承認された。

三瓶主査：統計情報を提供するのなぜか。

植田氏：固定業務と他業務との共用検討を行う際に累積干渉が問題となるが、FS局の位置等がわかるとその解析の際に役に立つからである。WP5C会合では、最終的に統計情報を分析し累積干渉等の見積もり方を推奨する勧告を目指こととなると思う。

三瓶主査：ポイントごとの固有情報ではなく、統計情報を集めているのなぜか。

橋本委員：個別の干渉検討を行う段階ではポイントごとの情報は必要になるが、周波数帯における業務間の共用検討では、統計的な情報を元に判断を行っている。ただ、これまではグローバルな統計

情報はなかった。国や地域によりアンテナ仰角や雨の降り方等確率は違うが、様々なデータをどうまとめて勧告化し、他のSGでどのように使用してもらうかは今後会合で議論されるが、まずは統計情報を収集するところから開始されているところである。

三 瓶 主 査：個別の判断をした上で統計情報を結論として示すのはよいが、何かを検討するために統計情報を集めると言うのは、誤った評価になることもあるのではないか。

橋 本 委 員：本評価手法は固定業務と衛星業務では従来から行っており、現在は、ある周波数ではどのくらいの確率で干渉が起こるのかということが研究課題となっている。あらゆる場合で、共用できる場合もあるし出来ない場合もある。例えば、何千局もルートがある中で、衛星の方を向いているものが1%である時は共用できるが、5%では共用できないという判断基準は統計情報がベースになり、アプローチとしては間違っていない。どのような勧告を目指すのかは未定な部分もあり、今後、会合で作業が行われる予定である。

【資料地-29-3-10】

荒木氏から「暫定新レポート案ITU-R F. [FS, IMT/BB]の作業文書の修正提案IMTと他の地上[モバイル]ブロードバンドシステムの固定業務バックホールネットワーク」に関する寄与文書案について説明があり、以下の質疑応答の後承認された。

三 瓶 主 査：本作業文書のScopeをバックホールネットワーク部分（基地局とコアネットワーク間または基地局間）のみにしたい理由は何か。

荒 木 氏：本作業文書が対象としている新しいIMT等では、IPインターフェース接続となっており、上部の階層に影響されない。このようなシステムでは高い周波数帯を利用した大容量で距離が短い無線のバックホールが適用できるのではないかとすることを前提に書いてはどうかと思っている。

三 瓶 主 査：そのことは本文に記載しているのか。

荒 木 氏：記載しておらず、特段強い意志があるわけではない。今後どういった方針で進めるかは会合参加者に確認して決めていきたい。

三 瓶 主 査：もっと明確に記載してもいいと思うが。

橋 本 氏：全体としては、テキストの一部にトランスポートという単語が使用されており、そのままでは誤解があるので、バックホールと

いう記載にした方がより明確ではないかという提案になっている。

【資料地-29-3-11】

涌井氏から「新レポート暫定案ITU-R Report F. [FS USE-TRENDS]」に関する寄与文書案について説明があり、エディトリアルな修正を施し承認された。

三 瓶 主 査：伝送距離はどの程度を想定しているのか。

涌 井 氏：考え方にもよるが3kmである。詳細はP5に記載している。

橋 本 委 員：SNMPの用語解説を記載してはどうか。

涌 井 氏：ご指摘通り修正する。

三 瓶 主 査：本レポートはいつ頃まとまるのか。

大 槻 氏：本年11月のSG5で完成させたい。

(4) ITU-R SG5関連会合への対処方針案について

【資料地-28-4】

事務局より、ITU-R SG5関連会合への対処方針案について説明が行われ、承認された。

(5) その他

修正の必要がある寄与文書については、5月7日（水）17：00までに事務局に提出することになった。

また、承認された寄与文書について、大きく主旨の変更がない限りは、文書案の変更の可能性がある旨、事務局から了承を求め、承認された。

以上